

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「ICTによる教育・学習支援」

提出日 2021年8月24日

 長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

 高等教育推進センター長
小谷 正登
(高等教育推進センター)

1. 長期戦略のテーマ

超長期ビジョン		長期戦略(テーマ名)		統轄部署
1	学士課程教育	(10)	ICTによる教育・学修支援	高等教育推進センター
内容				
<p>LMS、e-Portfolio、IR、MOOCsなど教育のICT化が急速に進んでおり、VR、AIの導入も想定され、教育の手法・環境が大きく変化しつつある。</p> <p>本大学は、人と人の直接的なコミュニケーションや交流を重視し、キャンパスでの対面授業を基本とするが、同時にICTを補助的な機能として最大限活用し、学生の学びをより効果的な学びへと結びつける。</p> <p>例えばオンライン教育は、授業外学修が自宅でも大学(キャンパス)でも可能となるうえ、入学前の推薦入学合格者や、大学(キャンパス)に來られない社会人(特に卒業生)を対象としていつでもどこでも自分のデバイスで受講できるようになる。</p> <p>また、世界各地の学生がVR技術によって空間を共有する感覚の中でディスカッションするなど国際的な教育環境をインターネット上に創出したり、分野によってはAIによって学修成果の修得状況に応じたきめ細かな教育を提供することも海外では実用段階に入っている。</p> <p>学修支援、学生生活支援においても、学生の多様なデータをひもづけ、各部署が共有することで「e-学生台帳」を構築・活用し、一人ひとりの学生に対して総合的で最適な支援をできるようにすることが、めざすべき最終形態である。</p> <p>こうしたICTによる教育・学修支援を進めるには、専門部署が予算・人員を確保し、技術革新に合わせて試行的に取り組んで効果を検証する必要がある。また、初等・中等教育からデジタル化を教室内外で経験してきたこれからの世代にとって、ICTを活用した教育手法はごく自然のことである。キャンパス全域において無線LAN環境を整備し、BYODを基本として双方向授業のためのツール導入などインフラ整備を積極的に進める。</p> <p>【フェーズⅠのTotal Review】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業実施のためのLMS活用が重要となっており、安定的に運用しながらも、利便性の向上をめざす必要がある。 ・ポストコロナを見据え、ICTによる教育・学修支援の在り方を抜本的に検討する必要がある、長期戦略の見直しをはかる。 ・このため、「教育の情報化」を推進する観点から、2021年度中に高等教育推進センターの在り方を検討し、総合企画部(情報企画)、情報化推進機構等との役割分担を明確にする必要がある。 <p>【フェーズⅡに向けた課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン(オンデマンド、ハイブリッド)を進める戦略、体制、環境の整備 ・BYODを前提とした情報環境の整備 ・オンライン化に伴う授業支援等のルール的大幅な見直し(印刷配布からLMS上での配布等) ・教員のオンライン授業作成支援のための動画撮影スタジオとサポート体制の拡充 ・学生の学修履歴を活用した効果的な教育・学修支援の検討 				

<実施計画策定における補足説明>

九州大学などPC教室を撤廃しBYODを推進する大学も見られ、本学においても、BYODを見据えた環境整備を行う必要がある。さらには、ほぼ全ての学生がスマートフォンに依拠した生活を送っている現状を鑑みると、スマートフォンを前提としつつ、タブレットやパソコン(Windows、Mac、Chromebookなど)も含めたマルチデバイスに対応したインフラ整備を進めるべきである。これらの環境整備を進めICTを活用する利点として、さまざまなデータを蓄積することができる。たとえば、ICカードで出席をとる、コモンズ等への入室管理を行うことによって、学生のキャンパスへの滞在時間の把握や位置情報、LMSの利用履歴等から学習時間の把握などが可能となる。先行している大学では、すでにこのような取り組みが開始されており、本学においても、これらのデータをLearning Analyticsとして利用し、学修支援への利活用を視野にいれた整備を進める。

すでに、本学においては、LMS(LUNA)が学修支援ツールとして広く普及し、授業においてはもちろん、授業外学習を支援するツールとして定着しており、環境を充実させることにより、さらなる利用を促進することができる。

また、ICTを活用した授業設計・デザインを行う教員を支援する体制整備も、学士課程テーマ(12)「教員個人・組織の教育力向上」と連動して行う必要がある。

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「ICTによる教育・学習支援」

提出日 2021年8月24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)高等教育推進センター長
小谷 正登
(高等教育推進センター)

指標 1

指標	内容					
指標名	目的・目標：① いつでもどこでも学習できる 指標：LMSの利用率					
定義・算式	LMSの利用率（教材等が掲載されている科目の比率） 教材・お知らせ・掲示板に配付資料等が掲載されている科目数/大学開講科目数（履修ゼロ科目を除く）					
現状値 (指標設定時)	50.6% (2017年度)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	53%		57%		60%	
実績値	2019年度	56.1%	2022年度		2025年度	
	2020年度	85.7%	2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標 2

指標	内容					
指標名	目的・目標：① いつでもどこでも学習できる 指標：1週あたりの授業外学習時間の平均					
定義・算式	共通学生調査（IR1年生調査・IR上級生調査）の「授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」時間が30時間以上の割合 (キャップの上限値をセメスター16単位まで下げたととしても、1単位あたり2時間の授業外学習時間が必要となるため)					
現状値 (指標設定時)	3.3% (IR1年生調査・15時間以上) 4.2% (IR上級生調査・15時間以上)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	50%		70%		90%	
実績値	2019年度	1.0%(1年生) 1.5%(上級生)	2022年度		2025年度	
	2020年度	7.1%(1年生) 3.0%(上級生)	2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標 3

指標	内容					
指標名	目的・目標：② 学生が充実した教育を受けている 指標：中退率					
定義・算式	各年度の入学生（正規・留学正規）の総数に対する退学者数の割合 or 各年度における、在学学生数に対する退学者数の割合（学生システムのデータから算出）					
現状値 (指標設定時)	1.5% (AERAムック 大学ランキング2019年版) 16年度(16年4月~17年3月)の退学者の割合で、分母は16年4月の学生数。					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	1.2%		1.0%		0.8%	
実績値	2019年度	1.2% (2017年度)	2022年度		2025年度	
	2020年度	1.4% (2018年度) 1.2% (2019年度)	2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「ICTによる教育・学習支援」

提出日 2021年8月24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)高等教育推進センター長
小谷 正登
(高等教育推進センター)

指標 4

指標	内容					
指標名	目的・目標：② 学生が充実した教育を受けている 指標：単位取得率					
定義・算式	※成果指標としては除外するが、モニタリングすべき指標とし、目標値は設定しない 取得単位数 ÷ 登録単位数（認定科目・履修中止科目等を除く） 1年生の大学開講科目の履修成績で、授業評価が「不可」以外の割合（学生システムのデータから算出）					
現状値 (指標設定時)	88.93% (2017年度) 88.94% (2016年度)					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	-		-		-	
実績値	2019年度	90.33%	2022年度		2025年度	
	2020年度	92.15%	2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

指標 5

指標	内容					
指標名	目的・目標：② 学生が充実した教育を受けている 指標：4年卒業率					
定義・算式	※成果指標としては除外するが、モニタリングすべき指標とし、目標値は設定しない 各年度の入学生（正規・留学正規）の総数に対する4年以内の卒業生者数の割合（学生システムのデータから算出）					
現状値 (指標設定時)	82.7% (AERAムック 大学ランキング2019年版) (2013年度入学者のうち、16年度(17年3月)に卒業した学生の割合。留学、休学、退学せずに卒業した学生の割合。 早期卒業を含み、編入学は含まない。					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	-		-		-	
実績値	2019年度	83.0% (17年度卒業生)	2022年度		2025年度	
	2020年度	93.2% (18年度卒業生)	2023年度		2026年度	
	2021年度	84.6% (19年度卒業生)	2024年度		2027年度	

指標 6

指標	内容					
指標名	目的・目標：③ 学生が満足した学習支援を受けている 指標：学習支援に関する満足度の比率					
定義・算式	未確立。 学生生活アンケートを実施した上で、目標値を設定する。					
現状値 (指標設定時)	現状値なし					
目標値	フェーズ1終了時(2021年度)		フェーズ2終了時(2024年度)		フェーズ3終了時(2027年度)	
	-		今後、設定を行う		今後、設定を行う	
実績値	2019年度	-	2022年度		2025年度	
	2020年度	-	2023年度		2026年度	
	2021年度		2024年度		2027年度	

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「ICTによる教育・学習支援」

提出日 2021年8月24日

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	高等教育推進センター長 小谷 正登 (高等教育推進センター)
-----------------------	--------------------------------------

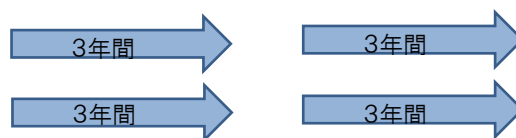
2. 実施計画ロードマップ

実施計画		担当部署	学部・研究科 での 取組み有/無	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027
①	各種入試合格者等入学前学生への利用者 ID 付与	情報化戦略本部	必要なし	2019年4月に承認された「情報化計画」の実施計画に沿って推進する。								
②	BYOD 対応への環境整備 (Wi-Fi 等の整備、クラウド対応)	情報化戦略本部	必要なし									
③	各システムのスマートフォン対応、および、マルチデバイスへの対応	情報化戦略本部	必要なし									
④	LMS の利用促進	高等教育推進センター	必要なし	3年間			3年間			3年間		
⑤	学生カルテシステムの導入 (学士 13 より移行)	高等教育推進センター	必要なし				設計・構築					
⑥	(SGU4-3) ポートフォリオの開発	高等教育推進センター (TF 質保証)	必要なし	3年間(SGU2期)			4年間(SGU3期)			3年間		
⑦			必要の有無を選択ください。									
⑧												
【備考欄】												

※想定される実施計画の例示

- ① 入学前学修等オンライン教育の導入
- ② 授業外学修や社会人教育等のためのコンテンツ作成
- ③ 「ICTを活用した教育手法」実施に向けた環境の整備
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩

※ロードマップ策定作業用記号



I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「ICTによる教育・学習支援」

提出日 2021年8月24日

 長期戦略テーマの責任者
 (統轄部署)

 高等教育推進センター長
 小谷 正登
 (高等教育推進センター)

3. 本長期戦略テーマの各実施計画に関する費用、人員の合計 (2019年度～2027年度)

◆フェーズⅠ：2019年度～2021年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2019年度	2020年度	2021年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

◆フェーズⅡ：2022年度～2024年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2022年度	2023年度	2024年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

◆フェーズⅢ：2025年度～2027年度

費用計画・人員計画 (単位：万円)	2025年度	2026年度	2027年度
経費合計	非公開		
人件費合計			
総計 (経費+人件費)			

I. 長期戦略テーマ別帳票

テーマ「ICTによる教育・学習支援」

提出日 2021年8月24日

長期戦略テーマの責任者
(統轄部署)

高等教育推進センター長
小谷 正登
(高等教育推進センター)

4. 進捗状況等記入欄

	進捗状況および今後の課題、方向性
2019年度	LMS は毎年着実に利用率が上がっている。ポートフォリオは予定していた機能をすべて実装し、本格運用を開始している。LMS とポートフォリオのリプレースおよび学生カルテシステム導入を 2023 年度に予定しているため、2021 年度より順次検討を開始する。
2020年度	2020 年度は新型コロナウイルスの影響により、結果的に LUNA や OneDrive などを利用したオンデマンド型、を初めとして Zoom や Teams によるリアルタイムのオンライン授業などの実施が一気に拡大した。 特にオンデマンド型授業の増加により、学生に課される課題が増加し、授業外学修時間も増加したが、提供される授業コンテンツとのアンバランスを訴える学生の声もあり、オンライン／オンデマンド型授業に適した授業設計も求められることとなった。 また、今後の高等教育推進センターの在り方について、2021 年度に情報化改革本部のもとで検討される予定である。
2021年度	
2022年度	
2023年度	
2024年度	
2025年度	
2027年度	